2019 年版　水稲病害虫防除基準

病害虫名	防除時期	使用農薬名 （収穫前使用時期・総使用回数）	防除方法	注意事項
もみ枯細菌病 ばか苗病 いもち病	種子消毒 （浸種前）	一般及び採種は　テクリードＣフロアブル（１回） みのる式は　スポルタックスターナ SE（１回）	２００倍液に２４時間浸漬する。	•ごま葉枯病、褐条病にも適用する。浸漬中は時々攪拌し、液温（水温）１０℃以上とする。 •消毒後は水洗いせず陰干しし 乾かしてから浸種する。ただし、ﾃｸﾘｰﾄﾞ C ﾌﾛｱﾌﾞﾙは風乾不要。 •種籾１kg に対し薬液 1.7 ﾘｯﾄﾙで処理する。残液は毒性が強いので、適正な処理をする。
苗立枯病	は種当日	タチガレエース M 粉剤（１回）	育苗箱の床土５ﾘｯﾄﾙ当りタチガレエース M 粉剤６～８g を混和する。	・薬量が多いと生育に害が出る。５日以上の事前使用は効果落ちるため、は種当日の混和を基本とする。細菌性の病害の恐れがある場合は、カスミン液剤を覆土前に４倍液を散布（50ml/箱）する。

イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ イネツトムシ イナゴ ツマグロヨコバイ 葉いもち	育苗箱施薬 は種前･は種時 (覆土前) ～ 移植当日	薬剤名 ＼ 対象病害虫	施薬量 １箱当り	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ	ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ 第1世代	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ 第2世代	ｲﾈﾂﾄﾑｼ	ｲﾅｺﾞ	ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	いもち病
		ルーチンデュオ箱粒剤　（１回）	50g	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		プリンス粒剤　（１回）	50g	○	○	○	○	○	○	○		

•移植当日散布する場合は、軟弱徒長苗、ムレ苗には使用はさける。また苗箱の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落として使用する。散布後長く放置すると薬害が出るので、できるだけ早く植え付ける。
•ルーチンデュオ箱粒剤・プリンス粒剤はニカメイチュウの第２世代までの防除を省略することができ、イネツトムシ、フタオビコヤガ（イネアオムシ）にも有効である。
•ルーチンデュオ箱粒剤は葉いもちの他、内頴褐変病、もみ枯細菌病（苗腐敗症）に対しても有効である。
•ルーチンデュオ箱粒剤は黄萎病を媒介するツマグロヨコバイにも効果がある。
•播種前（床土混和処理）、播種時（播種後覆土前）の施用は、ルーチンデュオ箱粒剤及びプリンス粒剤を育苗箱１箱当り５０g 使用する。

ニカメイチュウ	防除時期	使用農薬名	防除方法	注意事項
一世代のみ	６月中旬 ～下旬	なげこみトレボン　（収穫 21 日前まで、３回以内） （但し５葉期以降）	なげこみトレボン１０ａ当り水溶性容器 10 個（500ml） スミチオン乳剤１０００～２０００倍液　１０ａ当り 60～150 ﾘｯﾄﾙ散布	•　手植え及び育苗箱施薬しない場合に使用する。 •葉鞘変色を確認した時に散布する。 •なげこみトレボンは、水溶性容器のまま圃場全体に均等に投げ込む。また濡れた手で作業しない。 •なげこみトレボンはｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ、ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ、イナゴ類にも有効である。また、湛水状態で散布し、散布後７日間は落水、水のかけ流しをしない。
一世代二世代	7 月下旬 ～8 月上旬	スミチオン乳剤（収穫 21 日前まで、2 回以内）	スミチオン乳剤　８００～１０００倍液　１０ａ当り 60～150 ﾘｯﾄﾙ散布	

いもち病	防除時期	使用農薬名	防除方法	注意事項
粉･液･ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤	葉いもち （発病直後） 穂・節いもち 穂ばらみ期 出穂期	ビーム粉剤 DL（収穫７日前まで、３回以内） カスミン液剤 （穂揃期まで、本田は２回以内） ブラシン粉剤 DL（収穫７日前まで、２回以内） ブラシンフロアブル（収穫７日前まで、２回以内）	**●粒剤・ジャンボ剤ははいもち病発生前の予防散布を基本とする。** **発生後の散布では効果が期待できない。** **●発生した場合は粉剤・液剤・ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤のいずれかを散布する。** 粉剤はいずれも１０ａ当り　３～４kg 散布 液・ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤はいずれも 1000 倍液を１０ａ当り１００～１５０ﾘｯﾄﾙ散布 コラトップジャンボＰは１０a 当り 10～13 パック（500～650g）を畦畔から均等に投げ入れる。 コラトップ粒剤５　　１０ａ当り３～４kg 散布 オリブライト１ｷﾛ粒剤　１０ａ当り１kg 散布	•葉いもち病は発見しだい薬剤散布し、穂・節いもち病は予防的に散布する。粒剤は散布時期を的確に守り、水深３cm以上で散布し、散布後３～４日湛水する。漏水田は効果がおちる。 •同一薬剤の連続使用をさけ、他剤との輪用を図る。 •ブラシン粉剤、ﾌﾛｱﾌﾞﾙ剤は内頴褐変病、もみ枯細菌病に有効である。 •粒剤は予防的に散布した場合に有効である。ただし、オリブライト１ｷﾛ粒剤は予防だけでなく発病１０日後まで効果がある。散布後、褐色の斑点が葉に現われることがあるが収量に影響はない。 •ジャンボ剤は藻の発生の多い水田、不正形の水田には効果が劣る。 •コラトップ粒剤・ジャンボ剤は穂いもち病に対し出穂３０～５日前までに散布する。 •オリブライト１ｷﾛ粒剤は紋枯病にも有効であるが、耐性菌回避のため、種籾ほ場での使用避ける。
粒剤･ｼﾞｬﾝﾎﾞ剤	葉いもち （初発前 10 日） 穂･節いもち （出穂前 20 日）	コラトップ粒剤５・コラトップジャンボＰ（２回以内） オリブライト１ｷﾛ粒剤（出穂10 日前まで、但し収穫45 日前まで、1回）		

| 紋枯病 | 病状進展初期
～出穂期 | バリダシン粉剤 DL（収穫１４日前まで、５回以内）
リンバー粒剤（収穫 30 日前まで、2 回以内） | バリダシン粉剤 DL　１０ａ当り　３～４kg 散布
リンバー粒剤　１０ａ当り　３～４kg 散布 | •バリダシン粉剤 DL は発病初期（穂ばらみ期～出穂期）に株元によく付着するように散布する。
•リンバー粒剤は出穂 14～10 日前に散布する。散布時は水深 3cm 以上、3～4 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水、かけ流しはしない。 |

同時防除薬剤	薬剤名 ＼ 対象病害虫	10a 当り散布量	いもち病	紋枯病	ﾆｶﾒｲﾁｭｳ	ｲﾈﾂﾄﾑｼ	ｳﾝｶ類	ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ	ｶﾒﾑｼ類
７月下旬～８月上旬	コラトップトレボン粒剤（出穂５日前まで、２回以内）	3～4kg	○		＊1○		○	○	
	ﾊﾟﾀﾞﾝﾄﾚﾊﾞﾘﾀﾞﾋﾞｰﾑ粉剤 DL（収穫２１日前まで、３回以内）	3～4kg	○	○	○	○	○	○	＊2○

•いずれか選択して使用する。
•使用方法及び注意事項の説明書をよく読んで、正しく使用する。
•**＊１　ｺﾗﾄｯﾌﾟﾄﾚﾎﾞﾝ粒剤はｲﾅｺﾞ類にも有効（４kg散布）、ﾆｶﾒｲﾁｭｳは第１世代に有効（４kg散布）**
•**＊２　ﾊﾟﾀﾞﾝﾄﾚﾊﾞﾘﾀﾞﾋﾞｰﾑ粉剤 DL はカメムシ類に対しては１０ａ当り４kg散布**

害虫名	防除時期	使用農薬名	薬剤名（使用時期・回数） ＼ 対象害虫	10a 当り散布量	カメムシ類	イネツトムシ	ウンカ類	ツマグロヨコバイ	フタオビコヤガ	イナゴ類
カメムシ、ｳﾝｶ、ﾖｺﾊﾞｲ	８月上旬～中旬	スタークル豆つぶ	スタークル豆つぶ（収穫７日前まで、３回以内）	250ｇ	○		○	○		
	８月中旬～下旬	MR. ジョーカー粉剤 DL	スミチオン乳剤　1000 倍（収穫 21 日前まで、2 回以内）	60～150ℓ	○	○			＊2○	
		スミチオン乳剤								
イネツトムシ ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ（ｲﾈｱｵﾑｼ）	７月中旬～８月上旬	MR. ジョーカー粉剤 DL	パダン SG 水溶剤　1,500 倍（収穫 21 日前まで、6 回以内）	60～150ℓ		○				
	７月下旬～８月中旬	パダン SG 水溶剤								
イナゴ、クサキリ類	６月下旬～７月下旬	MR. ジョーカー粉剤 DL	MR. ジョーカー粉剤 DL（収穫７日前まで、２回以内）	３～４kg	○	＊1○ ４kg	○	○	＊1○ ３kg	○

•カメムシは本田内への侵入を防ぐため、出穂２週間前までに畦畔雑草の草刈りを行い、遅れた場合は実施しない。北部・山沿いの「あきたこまち」「酒米」は特に注意する。
•カメムシ類対策でスタークル豆つぶを湛水散布する場合は**出穂後７～１０日に散布**
•カメムシの発生の多い場合は、キラップフロアブル、スミチオン乳剤、MR. ジョーカー粉剤 DL のいずれかを散布する。
•＊1MR. ジョーカー粉剤 DL はイネツトムシに対しては４kg、フタオビコヤガに対しては３kg、その他害虫に対しては３～４kg散布する。
•＊2 スミチオン乳剤はフタオビコヤガに対しては 2000～4000 倍、その他害虫に対しては 1000 倍で散布する。（10ａ当り 60～150ℓ ）
•ウンカは出穂初期に被害があるため、８月上中旬に水田内部の株元を調べ、発生程度を確認して散布する。
•MR. ジョーカー粉剤 D は、イナゴ・クサキリ類には中令期以降でも効果があるが、幼虫初期に畦際のイネを重点に散布すると更に効果が高い。
•イネツトムシの発生の多い場合は、パダン SG 水溶剤または MR. ジョーカー粉剤 DL を散布する。

ＪＡ中野市営農センター

当防除暦の複製・コピーの禁止